

## 宗教と戦争（余話）

大森 海太

宗教はその土地の気候風土と関係が深い。

温暖で緑濃く四方を海に囲まれた日本には、苛烈な環境の中東で培われた一神教、とくに戒律厳しきユダヤ教やイスラム教は伝播せず、ヨーロッパに渡ったキリスト教は、植民地獲得と裏腹の布教活動でアジア諸国から日本にももたらされたが、キリシタン浸透を危惧する徳川政府によって禁じられた。

日本ではもともと神話の世界にあるような神々が祀られており、六世紀末、朝鮮半島經由で仏教が伝えられ様々な宗派が誕生したが、宗派間の争いも戦争には至らず、また既存の神道との間でも大きなフリクションはなく、逆に一部では神仏習合が見られるほどであった。他国との宗教上の争いはなかったし、国内でも信長の一向一揆鎮圧と島原の乱を最後に、宗教戦争らしきものは見当たらない。

明治以降、わが国にもキリスト教が広まり各地に教会もたてられたが、仄聞するところによるとそれなりに和風の味付けとなっており、これまた他宗教との軋轢は少ないようだ。

というわけで島国日本では宗教も我が国の風土に合った穏やかなものとなっており（もちろん例外はあるが）、厳しい自然環境で生まれたイスラム教やインド発のヒンドゥー教は広まらなかった。

閑話休題、私は毎朝仏壇にお茶をあげて家族の息災を祈り、神社仏閣に参れば相手構わずお賽銭をあげ、結婚は神前だが（子供たちは俄かクリスチャン）死んだら坊さんがお経をあげてくれるだろう。多くの日本人にとって宗教とはこのようなものだろうと勝手に想像しており、まあいいんじゃないかと考えている。

ところで最近になって気になることは、AIの急激な発達によりなにやら仮想空間とかに分身で参加することが喧伝されていて、近い将来人類の精神活動に甚大な影響を及ぼし、宗教とて例外でないやう。

どうでもいいけど朝から晩まで画面ばかり見てないで、少しは外の空気を吸ったらどうだろう。近所のお寺の境内で桜を見ながら、そんなことを思った。